船橋支部の現況は、下表に示すように北部・東部・西部の３ツの地区から成り、それぞれを20名前後の編成りとなるように各地区６分会とし、支部長を１８の分会長に補佐・支援を願って支部の統括事業を行っております。密集地は人員も多く過疎地は人も少なく範囲は広くなります。

支部発足当時（昭和61年：1986）は役員も田中賢一支部長以下12名で、分会組織も確立されて居らず役員が地域を分担し、 403名の会員の掌握と５年に一度作成される「県名簿」の配布を担って居りました。

分会等現況表

H 23.06.20現

しかし、

それではどうにも掌握しきれずで、二代目川口　豊支部長（平成６年：1994）の時代に現在と同じ１８名の分会長を設け、さらに副分会長及び２～３名の幹事等を増設して分会の充実を図り、組織図を兼ねた「分会名簿」及び「分会電話連絡網図」作成等手を変えしなを換え分会内の連携強化に努めたが功無く、時代遅れの電話網図は不調だった。

曲がりなりにも分会組織が確立したかに見えたが、分会長が命ずるよりも己自身で実行する孤軍奮闘型の方が多く手渡し遅れ。

分会単位で活動中

◎松ケ丘・坪井、大穴分会は
鎮座・盆七夏祭礼運搬

◎宮本・本町分会は
市夏祭りの警護等支援

今後の取り組みとして

「東日本大震災」のような未曽有な災害になると市としても自主防災組織が50%未満では確実なる情報が掴めないので、その情報収集を市内24ケ所の避難所（中学校）を介してお手伝いする企画立案中。

要員として避難所数×２名を

西船分会は若手の後継役員が見つからず募集中、県本部の直轄状態なり。